

カルチャー・ショック 外国人のみた日本



Dr. Nu Nu Lwin
出身地：ミャンマー
所属：ヤンゴン経済大学経営学部上級講師
日本滞在：2009年7月～8月

電車に乗って

ヌ・ヌルイン

正月のお祝い、夏の花火大会、盆おどりなど日本には季節のお祝いやお祭りがある。それらはとても興味深く魅力的だ。

日本滞在中、すばらしいと思ったものひとつに鉄道システムがある。毎日、人々が利用する電車は時間に正確だし、清潔に保たれている。駅もしっかりである。

今回の日本訪問は三回目、千葉県には二度目で幕張、東京間を通勤することになった。そこで、日本に長く住む友達に電車の使い方を教えてもらった。彼から首都圏の電車の路線図をもらったのだが、各路線は皿の中で絡み合った色とりどりのスパゲッティのようにみえた。東京メトロの九線、都営地下鉄の四線の路線図だけでも相当に複雑である。

だが、この路線図は東京二三区中心なので幕張から東京に行くには余り役にたたない。友達がJR線と私鉄の路線が載っている別の地図を見せてくれた。それはもともと込み入っていたが役に立った。幕張本郷から海浜幕張からJRを使い西船橋で東西線に乗り換え都心に出ることにした。

朝のラッシュアワーは恐ろしく混んでおりその混み様は「鯛の缶詰のようだ」といわれていると読んだことがある。東京都交通局の調査によると東西線は朝の混雑率が九九%でダントツだそう。二位、三位

は千代田線と新宿線で二八%で並ぶ。

奇妙なことに定員の二倍の朝の通勤時でもなぜか車内は異様な沈黙に覆われている。どうしてだろう？ 聞こえるのは車掌さんのアナウンスとガタゴトいう電車の音、たまに携帯音楽プレーヤーのかすかな音が聞こえる。

日本人の友達にこの静けさのわけを尋ねたのだが、彼の答えは、乗客は前日の疲れが残っているのかも知れないとか、電車のガタゴトいうあの音が結構リラックス効果があるから皆それに聞き入っているのだろう、などというものだった。公園でひとり座り、自然をたのしむときのような静けさなら望ましいのだが…

人間同士のコミュニケーションは大事だと思う。「おはよう」、「調子はどう?」、「また明日ね」といったちよつとした挨拶は心をなごませるし親近感が増すものだ。そうは思いませんか？

日本では、多くの人が電車の中で居眠りしている。朝のラッシュ時も午後の空いた時間も、何人もの人がこっくりこっくりしている。隙をみて盗みをする人もいるのだらう。隙をみて盗みをする人もいるのだらう。隙をみて盗みをする人もいるのだらう。隙をみて盗みをする人もいるのだらう。

地下鉄の同じ駅、例えば大手町でも違う線に乗り換えるときに長い距離を歩かなければならないと苦情をいうひともある。各路線が無計画に建設されたから乗換えが不便になり、連絡通路を歩かされたり階段を上ったり下りたりしなければならなくなるのだ、と。確かにそうだろうが電車や地下鉄の駅間の連絡は乗客にやさしくバリアフリーにできており、エスカレーター、エレベーター、スロープ、障害者用のトイレなども整っている。

鉄道のことを語るときに忘れてならないのはICチップが埋め込まれたPASMOやSuicaだ。私鉄や地下鉄が発行するPASMOとJR東日本が発行するSuicaは何度でもチャージできるし、相互乗り入れ方式になっている。

カードは改札のカードリーダー・パネルにタッチするだけで出たり入ったりできるし、電車だけでなくバスの乗車や買い物にも使える。私のような漢字や仮名が読めない外国人にとって駅で切符を買うのは一苦勞である。運賃をチェックせずにタッチするだけで乗車できるこのシステムは非常にすばらしい。

というわけで日本の鉄道網を通じて様々な経験をした。また考えることも多かった。今後も、東京やその周辺で電車を使うたびに新たな刺激があるだろう。

(短期訪問研究員/訳 眞田孝之)